☆．山形県における調査結果概要

○河川とダム周辺の植物環境は、全国的にも多様で貴重な種が多く分布している事が判明！
○特定外来生物として指定された植物３種を確認。
（アレチウリ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ）

【山形県内調査結果概要】
　下表に２巡目調査と平成１６年度調査の種数について示します。
前回調査と今回の調査を比較すると、各調査項目の確認種数では大きな変化はありませんでした。また、特定種では、寒河江ダムにおいて絶滅危惧種の植物２種（イイヌマムカゴ、ホソバツルリンドウ）が今回の調査で確認されました。特に、イイヌマムカゴは今回調査を実施した全国２９ダムの中で唯一の確認でした。このように、山形県内の河川とダムは、植物にとって良好な環境を保っており、貴重な生物の生息空間となっていることが伺えます。

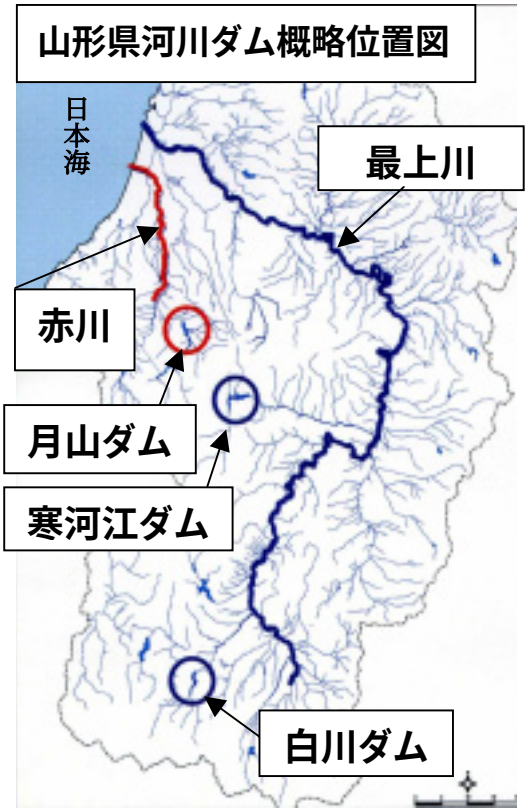

表　山形県内の河川とダムにおける調査実施項目と確認された種

河川名 ダム名	調査項目※1)					
	底生動物		植物		動物・植物プランクトン	
調査年次	2 巡目	H16	2 巡目	H16	2 巡目	H16
最上川			975	876		
			19	10		
赤川			491	470		
			4	3		
寒河江ダム			634	684		
			7	9		
白川ダム			513	700		
			7	7		
月山ダム	-	159			-	103
	-	0			-	―

注1）表中の上段の数字は確認された全体の種数を、下段は特定種の種数を示しております。

【各調査項目のポイント】

◆植物

最上川、赤川、寒河江ダム、白川ダムにおいて平成16年に植物調査を実施した結果、上表のとおり種が確認されました。特に、最上川では876種が確認され、今回調査を実施した全国18河川で最も多い北陸地方の信濃川1121種に次いで多い河川でした。一方、特定種を見ても、最上川では10種確認され、北陸地方の信濃川24種、東北地方の米代川12種に次いで、多く確認されました。また、寒河江ダムでは、絶滅危惧ⅠB類に指定されているイイヌマムカゴとホソバツルリンドウが今回の調査で確認されました。特に、イイヌマムカゴは今回調査を実施した全国29ダムの中で、唯一寒河江ダムで確認された植物です。

◆底生動物

月山ダムにおいて、平成16年度に底生動物調査を実施した結果、159種が確認されました。これは、今回調査を実施した調査ダム16ダムで最も多い、東北地方の浅瀬石川ダム178種と比べても比較的多く確認されました。

【外来種の傾向】

今回調査を行った山形県内における河川とダムすべてにおいて、アレチウリ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ3種が確認されました。これら3種は、いずれも平成18年2月1日に国土交通省大臣が防除の主務大臣になった該当種です。なお、国土交通大臣が防除の主務大臣になっている該当種はアレチウリ（ウリ科）、オオカワヂシャ（ゴマノハグサ科）、オオキンケイギク（キク科）、オオハンゴンソウ（キク科）、ナルトサワギク（キク科）の5種です。
いずれの種も繁殖力が旺盛で、在来の生態系に被害を及ぼすおそれがあります。特に、オオハンゴンソウは、観賞用に持ち込まれたキク科の植物で、大群落になることがあり、国立公園などでは、在来種に悪影響があるとして除去されており、最上川では1巡目（平成6年度、平成7年度）の調査から引き続き確認されております。

表　最上川、赤川における特定外来生物（植物）の確認状況

河川名	オオキンケイギク			オオハンゴンソウ			アレチウリ		
	1巡目	2巡目	3巡目（H16）	1巡目	2巡目	3巡目（H16）	1巡目	2巡目	3巡目（H16）
最上川	●	×	●	●	●	●	●	●	●
赤川	×	×	●	×	●	●	●	●	●

×　：　未確認　　●　：　確認


オオキンケイギク


オオハンゴンソウ


アレチウリ

写真　：　（財）リバーフロント整備センター
「川の自然をみつめてみよう②　～河川の外来種図鑑～」　より

◆底生動物

平成16年度に底生生物の調査を実施した月山ダムでは、外来種のサカマキガイが確認されました。サカマキガイは平成16年度に底生動物調査を実施した全国16ダムで、最も多く確認されていた外来種で8ダムにて確認されました。外来種は在来種への影響が懸念される為、今後も継続的にモニタリングを実施していく必要があります。